

教育学部

I	教育の水準	教育 20-2
II	質の向上度	教育 20-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に組織的ファカルティ・ディベロップメント（FD）を延べ23回開催しており、ほぼすべての教員が出席している。
- 平成27年度に教職支援ネットワークを立ち上げ、教職に興味を持つ学生に対し、新任、中堅、校長クラスの現職教員との交流を通して、教職の魅力や現場の生の声を知る取組として「進路セミナー：学校の先生という仕事」をこれまでに8回開催するなど教職関連のキャリア支援体制を整えている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 前期課程（教養学部）と後期課程のスムーズな接続、専門領域の幅広い学び、特定分野の掘り下げという3点を踏まえた緻密な教育課程編成を行うとともに、学生に主体的な履修科目の設計を求め、学生自らが課題を設定し、構造・論理立ててアプローチする形式とするなど、主体的な取組を支援している。
- 主体的学習を促すため、フィールドワークや演習等の授業を中心にティーチング・アシスタント（TA）を配置し、学生に細かな指導、助言を行っている。また、TA一人当たりの学生数は平成21年度の11.7名から平成27年度の8.1名となっている。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の単位修得状況について、80単位以上の修得者（卒業要件は76単位以上）は平成21年度の31.3%から平成27年度の50.5%となっており、「幅広い教養や総合的判断力等の資質・能力の涵養を図るとともに、専門分野の基礎と社会性を身に付けた人材を育成する」という全学の教育目標に照らして設定している教育課程の提供意図が現れてきている。
- 卒業時に学生に行った達成度調査の結果について、平成21年度と平成26年度の肯定的な回答の割合を比較すると、「所属学部に通ずる知識や考え方」は42.8%から82.5%、「幅広い知識やものの見方」は60.7%から90.5%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間の卒業生のうち就職者の割合は平均60%、進学者の割合は平均30%となっている。また、就職先としては教育機関、教育行政、教育・学習支援業、マスコミを含む情報通信業やサービス業等の幅広い分野にわたっている。
- 在学中の経験及び就職に対する満足度調査結果について、平成21年度と平成26年度の肯定的な回答の割合を比較すると、「教員との接触の満足度」は39.2%から75.7%へ、「卒業後の進路の満足度」は74.0%から83.7%へ増加している。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育改善の体制として、第2期中期目標期間に組織的FDを延べ23回実施しているほか、授業評価及び卒業時の達成度調査の実施及び分析を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間における標準修業年限の1.5倍の6年以内の卒業率は97%前後となっている。
- 平成22年度の改組を通して、少人数による主体的な学びの実現、コース内・コース間の連携による指導体制等を整備したことにより、卒業時に学生に行った達成度調査の結果について、平成21年度と平成26年度の肯定的な回答の割合を比較すると、「所属学部に通ずる知識や考え方」は42.8%から82.5%、「幅広い知識やものの見方」は60.7%から90.5%となっている。また、在学中の経験及び就職に対する満足度調査結果について、平成21年度と平成26年度の肯定的な回答の割合を比較すると、「教員との接触の満足度」は39.2%から75.7%、「卒業後の進路の満足度」は74.0%から83.7%となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。